

校長室だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/maruyamadai/>

「当たり前の大切さ」

校長 藤 至光

文化祭、合唱コンクールから10日が経ちました。私自身はあの時の感動がいまだに残っているのですが、子どもたちはきちんと切り替えて日常の生活に戻っています。子どもたちの顔は以前より明るく穏やかに見えます。合唱を通して協力し合えたことで相互理解が深まり、安心できる学校生活につながっているのかもしれない。

さて、日常生活の当たり前。

本校の下駄箱を見に来てほしい。靴が見事にきれいに下駄箱に揃っています。生徒が登校した後の下駄箱は、下段に外履きが入っており上段には何も入っていません。生徒が下校した後は、上段に上履き、下段には何も入っていない状態です。ただ、部活で使用するシューズを置いて帰る人もいますので、下段にシューズが入っている場合がありますが、それは許可されています。このようにきれいに約束通りに靴を入れてもらえると、朝は誰が登校していて、だれがまだ登校していないか分かりやすいのです。また下校後も同様に、生徒が残っていないかの確認もしやすい状況が生まれます。当たり前のことですが、きちんとやり続けるうちの生徒は素晴らしい。

本校の授業の開始を見てほしい。チャイムが鳴ると授業がスタートできるよう、チャイム着席が浸透しています。時々遅れる生徒がいないわけではないですが、ほぼ毎日、毎時間やられています。まさに態度化されているので、基本的に崩れることはないでしょう。本当は、チャイムは時間になったときに鳴るわけですから、全ての授業がチャイムと同時に始まるのが理想です。校長室からはグラウンドが見えます。保健体育の授業では、チャイムと同時に授業開始ということが実践されているように思います。もちろんそれは、子どもたちの早い移動があるからこそできることでもあります。

本校の昼休みの終了時を見てほしい。予冷が鳴ったら、みな今やっていることを止めて、ボールの片付けが始まります。なかには予冷が鳴る2分くらい前からボールの片付けに来る生徒もいます。子どもたちは昼休みにそれぞれが思い思いに遊んでいます。教室では、黒板に自慢の絵を描いたり、先生と一緒にカードゲームをしたりしています。今日は教卓の上に、マジックを縦に積み上げる競争をしている人がいました。また図書室で読書をする人もいます。そして、グラウンドでは貸出ボールを使って、バレーボールやサッカー、ドッジボールを楽しんでいる人もいますし、鬼ごっこで走り回っている人もいます。それらの人々が皆予冷の合図で、授業に向かいます。これも当たり前のことかもしれませんが、貸出ルールを守って当たり前に行っていることが素晴らしいと思うのです。これは、貸出当番の生徒が授業に遅れないようにすることにもつながっています。市内には146校の中学校があります。そのすべての学校が丸中と同じようにできているわけではありません。

この当たり前のことを当たり前にやり続けることができる丸中の生徒が私の自慢です。